

令和5年度 はこぶね認定こども園 自己評価結果公表シート

2024. 6. 20

1. はこぶね認定こども園の教育方針

教育目標は 1976年に粕屋町に唯一の私立幼稚園として建てられた建学の精神に基づき、下記の教育目標を掲げます。

◎キリスト教精神に基づいた幼児教育・保育
礼拝と祈りの中で、神に愛されている大切な神の子であることが教えられ、それゆえに他者を愛する心、他者に感謝する心、他者を思いやる心などが教えられます。このように心の教育を大切にします。

◎学ぼうとする意欲を深める
子どもは「遊び」を通して多くの「学び」をなし、創造性、協調性などが養われる、と思われま。それに少しの動機づけなし道筋をつけることにより、自ら進んで楽しさを見出し、自ら学ぶ意欲が深まります。絵本の読み聞かせ、数遊び、歌や楽器の演奏、その他の手段を用いて、更に学ぼうとする意欲を深めます。

◎健康な体を育むために体を動かす。
比較的広い園庭(ビジョン棟新築に伴い、園庭が整備されました)で、精一杯遊び、走り、夏は豊かな井戸水でプール遊びを楽しむなど、基礎体力の向上を目指します。
更に、教師の研修・研鑽により、子どもの意欲を引き出し、プログラムのもとに全員が一つの課題ないし目標の達成を目指し、達成した喜びや、感動を共有します。そのために「毎日少しずつ」の練習をします。

2. 評価項目の取り組みと評価

項目は6つに分かれています。自己評価の評価ポイントは各項目及び設問<良い：3・普通：2・不十分：1>の平均ポイントです。評価は最高3点～最低1点で記載しています。
学校関係者評価のポイントは各項目の取組と自己評価の<良い：3・普通：2・不十分：1>の評価です。評価点は評価委員の平均点です。最高3点～最低1点で記載しています。

項目	年度目標へ取り組みとコメント	自己評価	学校関係者	評価とコメント
①保育の計画性	指導計画、週日案を基に保育を行っているが今までの良い点はそのまま続けていながら、個々の目標、学年の目標を明確にし、個々の見通しや発達の段階を踏まえ計画を考えることも必要である。読み・書き・数・かけっこ・体操・音楽をベースに毎日の積み重ねを大切に卒園まで取り組んでいるが、一人ひとりの今の姿をしっかり捉え、どんなところを育てていきたいか、1日を振り返りながら保育の計画を立てていく。また季節の遊び、リズム遊び、製作、など様々な保育に取り組み、経験豊かな子供に育てていく。	2.8	2.8	・教育目標に基づいて、各学年別に年間目標を設定して計画を立てています。あくまでもノルマでなく日々の取り組みの成果の確認、進捗度をもとに計画を見直すことで園児の成長に繋がる目安としています。
②保育の在り方・子どもへの対応	子供一人ひとりの発達に見合った、言葉がけや援助を心掛けていく。 褒めて伸ばしていくことを心掛け成長につなげ、やる気を引き出していく。また常に幼児の目線に立ち、話を聞くように心がけた。教師も真剣に話を聞くことで子どもの気持ちに寄り添えることができた。子どもの成長した事や出来事がある場合、保育教諭同士で伝えあい、共有している。	2.7	2.8	・現代の子どもたちの育ってきた環境、過程を踏まえて園児一人ひとりの状況に応じた課題を与えるようにしています。状況に応じてチーム分けを行い、できる喜びを経験できるように配慮しています。
③保育者としての能力や良識	・昨年に比べ、研修に多くいくことができ、学んだことや気づいたことが多かった。 与えられた仕事だけではなく、園全体のことに對しての気づきを増やし、働きがけができるように心がけていくようにしていきたい。 ・身だしなみについては、長い人は髪を縛るなど、動きやすく清潔感があるように心がけていくことができた。	2.5	2.8	・園の教育方針を理解し園児の成長と保護者の期待に添えるように職員の意識・価値観を高めて共有できるように研修を行っています。 ・園児の成長に関わる教育活動、生活習慣において段階的な進捗に配慮し、何事も基礎基本の重要性を考えて大切にしています。
④保護者への対応	・子どもが少しでも変わった様子が見られたら、何日か見守り、その時の状況や幼児の反応を細かく伝え、各家庭に連絡するように心がけた。 ・元気に明るく挨拶をしたり、丁寧に接するように心がけることができた。さらに言動、言葉使いに気を付け謙虚な気持ちと言動に責任を持って接していくようにする。	2.6	2.8	・保護者対応について社会人としての一般常識を学び、相手に失礼が無いように注意しています。対面での対応、電話対応、言葉づかい、身だしなみなど園職員としての自覚と責任を忘れずに取り組んでいます。
⑤地域の自然や社会との関わり	・見学会や未就園児中心の親子クラブを再開することにより、園の様子や特色を伝えていくことができた。また親子の楽しいふれあいの場であるように行っていきたい。 ・花の日訪問でお世話になっている方々にお花を届けることができた。	2.6	2.8	・日頃から登降園時の挨拶を行い、園外から訪問される方にも気持ちの良い挨拶ができるようにしています。 ・様々な行事を通して自然の力、生命の大切さを学ぶ機会を設けています。
⑥研修と研究	・今年度は、様々な研修会に参加する機会があり日々の保育でより良い刺激になった。 ・終礼の時間に、保育に関する本を読むことで教師の意識も高まってきた。	2.9	2.8	・毎月の保育研修にて、保育に関わる職員は、子どもに対してより良い環境や、やる気を引き出す目標設定などを研究、討議、そして共有している。 また、年に2回は社会人として、また、園職員としての考え方や、振る舞い等も研修を実施し、改善向上している。

3. 自己評価を通して翌年度へ向けて課題と取り組み

・今年度は、いろいろな研修に行くことができたので次年度は、保育に取り入れていくようにし、意識を高めていきたいと思う。また、子ども一人ひとりのスキンシップをとったり、得意なことを伸ばしたり、苦手なことに挑戦できるようにしながら、信頼関係を築けるように心がけていきたい。

4. 近隣とのトラブルや苦情について

令和5年度はありません。

5. その他